

(誠に恐れ入るが)本書を手にお取りいただいた読者の皆様方の中の多くは、既にマンデラエフェクト(マンデラ効果)現象という概念をご承知おきで、実際に共有しているものや個人的に体験しているものなどがある方がほとんどだろうと思う。そのような皆様が本書を手にとられた目的は、自分の思索を深めたり新たな発見を得るためだろうか?あるいは、権威主義的な観点から、自分の体験などをなんらかの権威によって補充したり補強したりするためだろうか?

著者のポリシーとして、これは宇宙人問題などの他のオカルト分野についても言えることだが、マンデラエフェクトは、絶対に『ファシズム(全体主義的で、権威主義的で、強要的で、反発・反動を絶対完全否定したり、あるいは恣意的に侮辱的な偽旗を立てたりしてアジェンダをコントロールする振る舞い)』になってもいけないし、かといって、現状の、いやしくも誤謬的・教条的・権威主義的なファシズム科学論にも弱腰にならずに対抗できる強さとしなやかさが必要だと私は常々思っている。

最近流行りの、とある東大大学院で物理学科を専攻した素敵なYouTubeの女の子が、(そういう言い方はしていないが要するに)物理学の世界には非常にファシズムがあり、物理学警察を生き甲斐にして、四六時中言論監視している人がいっぱいいて、トンデモ科学認定や、エセ科学認定などが凄まじく、迂闊なことが言えないなどある動画で言っていたが、しかし、著者は現時点で直接の交流も面識もまだないが、保江邦夫(やすえ・くにお)先生みたいな方もいらっしやるし、しょせんは、学生・院生レベルで見えている世界ではという話に過ぎないのではないかと思っている。日本の昔からの言葉

で、「守・破・離」という言葉があるが、日本の物理学会にはこの守破離がちゃんとあり、イノベーショ
ンが生まれる土壌が守られているのだと私は信じている。（まあ私は、物理学に関して高校中退レベ
ルで、大学受験もろくにやらず、その守破離の「守」にも到達していないレベルなのだが。）

また、著者は科学の光明思想を信じている。誤謬的なファシズム科学論ではなく、例えば、理系なら
ハンセン病を根絶したり、社会科学なら同和差別問題を解消せしめたりするような、科学のイノベー
ションの力を信じている。それは、マンデラエフェクト現象を権威主義的に頭ごなしに侮辱的に否定す
るようなファシズム科学論とはまったく別物である。私は、両親が幸福の科学という程度の低い新興宗
教の信者で、幼少期の頃から、例えるならビートたけしのオカルト特番のような、誤謬的な権威主義的
な質の低い科学と、それに対立する、やはり誤謬的で権威主義的な質の低い宗教やオカルトという世界
観を、イデオロギーや思想ではなく、常識のように信じ込まされてきたが、今、27歳だが、ようやく、
ファシズム的な科学論と、それに対立する宗教という二項対立から抜け出し、質の高い科学と質の高い
オカルト、それらの**取り合い（境目）**を見つめて、あるいは立ち振る舞えるようになったのだと思う。

実際のところは、科学とオカルトは対立概念ではないし、むしろ、「パラダイムシフト」という観点
で言えば、科学こそがオカルトであるという見解もある。パラダイムシフトとは、アメリカの哲学者の
トーマス・サミュエル・クーンが提唱した概念だが、現在では、意図的に意味をねじ曲げられて、ある
いは誤解されることが多々あるが、本来彼が言いたかった**パラダイムシフト**（とりわけ、『**科学革命の
構造**（トーマス・クーン著）』に出てくる「**変則的事例**」）の意味は、マンデラエフェクトにかなり似
通った概念である。

そもそも日本以外の西欧先進各国では、科学とオカルトは対立概念であるという概念が稀薄である。日本には、よく言うように、「科学的」「非科学的」などという言葉があるが、著者の知る限り、主な外国語でこの言葉の適訳の単語はない。つまり、日本限定のガラパゴス的なドグマであると思われる。英語なら、オカルティック (Occultic) とか、オカルティズム (Occultism) というような、逆にオカルト側から科学を排斥しようとするような権威主義的なイデオロギー的な言葉はある。「科学的」とか「非科学的」というのは、日本限定のガラパゴス的なイデオロギーでしかない。このような弁理・分別が、社会一般の常識であるかのように蔓延っているのは日本ぐらいかもしれない。この対立概念的なドグマを、権威主義的に相手への侮辱に用いる人々は、低能過ぎて論外である。お話にもならない。

でも仕方のない部分もあるかもしれない。日本国が西洋科学文明を受容した時点で、科学は甚だ発展途上であり、それに歴史の長い国ほど因習的なオカルトを光も闇も沢山抱えてしまうので、一度分別して、科学とオカルトを対立概念のように捉えて対置して、対峙するしかなかったという事情、国を発展させて列強の脅威から国防するには、そうせざるを得なかったという事情があるかもしれない。もしいきなり量子物理学から入ってきていたなら、仏教を吸収して昇華させていた我が国は、科学とオカルトを対立概念のように捉えてしまう病理からは逃れられたかもしれない。

日本人にも科学とオカルトは対立概念ではないという考え方の萌芽は皆無ではないが、アメリカ人が「Fringe」を制作したのに対して、日本人は福山雅治主演の「ガリレオ」を制作した。どちらの作品も、科学とオカルトは対立概念ではないという切り口から制作されたエンタメ作品で、実際に大学教授の先生などが監修に参加している作品だが、そのアプローチはまったく真逆である。あるいは、ビートたけ

し氏の年末恒例のオカルト特番で、プラズマ研究の権威である早稲田大学理工学部名誉教授の大槻義彦教授の主張していることも実は、科学とオカルトは対立概念ではないというアプローチなのだが、日本のオカルト研究家の多くは、科学とオカルトを異なる権威主義同士の対立概念のように捉える権威主義的なドグマに毒されすぎてしまっていて、その固定概念の呪縛から逃れられず、異なる権威と権威の対立軸になってしまい、逆に大槻先生を攻撃してしまうし、また大槻先生も科学とオカルトの対立を異なる権威同士の対立軸のようにしてしまう。これが日本の残念なところであると著者は思う。ただ唯一、たま出版の荑澤潤一郎氏は、オカルトと科学を異なる権威主義同士の対立ではないというアプローチから、芸の心、ユーモアの心で、大槻先生と漫才を演じていたのはあっぱれである。

これを殊更に求めてしまうと、本書が逆に、権威主義や教条主義（ドグマ）の種になりかねないという自己矛盾を生じてしまいかねないので、無条件かつ絶対的には求めないが、著者は、親愛なる読者の皆様が、本書を最後まで読み終えたならば、なるべく、『ファシズム (Fascism)』的ではなくて、『ロージー (Cozy)』的な意識で、「ゆる」の平穩を得て、そしてまた同時に、正しいものは正しい、間違っているものは間違っていると指摘して、権威主義的な誤った科学論からの侮辱的な茶化しや批判を跳ね除けられる、自分のここを守れる強さとしなやかさを得られることを、願ってやまない。

もともと、オカルトの世界は、ロージーな意識とファシズムな意識の対立軸があり、壮大なオカルト話やロージーな怪奇話をする、不可思議な話が入らないファシズム意識のファシストから、批判や侮辱を受けて荒らされるのが常であり、宿命であるが、マンデラエフェクトの世界では、特にこれが酷かった。著者も、数えきれないほど叩かれて侮辱された。特に、インターネット、とりわけオカルト

板では、疲れていたり混乱したりしていて、文章に混乱によりパワーがなかったりするような状態の文章を書くと、彼は統合失調症であるというふうにしようとする荒らしがあるので、私は体調が悪くて疲れきっていたときに利用を始めたことも原因の一つとは考えられるのだが、しかしそれにしても、オカルトの世界には、例えば、宇宙人に関する話題、予知・予言界隈など、他にも壮大な話の界隈があるのだが、なぜこれほどまでにマンデラエフェクトの話題は荒らされやすいのだろうか。

おそらく、その他の（大きな）オカルト話は、すでに大体すべて、例えば、年末恒例のビートたけしのオカルト特番なんかで取り上げられて、その際、我々一般人のコージーな意識とファシズムな意識の調和、中和をしてくれる、間を取り持つ存在の一つに、芸能界と芸能人があるが、テレビで芸能人たちが、不思議な体験談を語ったり、あるいは、肯定派・否定派に別れて侃侃諤諤（かんかんがくがく）の議論をしたりするなどして、あるいは宇宙人の映画ならステイブ・スピルバーグ監督作品の『ET』やマイケル・ベイ監督らによる『Transformer Series』などがあり、要は、こなれさせて、ならされていいて、話題として熟しているのだが、マンデラエフェクトは、現在まだそれが不十分であるというところと言えると著者は思う。

未確認飛行物体（UFO）や宇宙人の話題も、今でこそかなり熟しているが、当初は、あるいは現在でも、日米間や米ソ間の戦争や対立に関係する軍事情報として要注意で取り扱われるようなセンシティブな課題であったし、あるいは、宇宙人の話題は、人間のコージーな意識とファシズムな意識の内部葛藤を刺激するため、現政治体制を揺るがす問題として注意深く取り扱われ、政府当局（各国政府や各国軍の情報部）によって、さまざまな創作物やテレビ番組などで、ならしてこなれさせて、民心を落ち着

かせるまでに長い時間と手間を要したし、現在でもその正体について、例えば、裏宇宙（反社会的なテロリズム宇宙、要は地獄）から訪れる悪魔的存在や、未来人などのではないかとも考察されることがあり、けっして朴訥（ぼくとつ）なオカルト愛好者のロマンの世界ばかりということはない。

マンデラエフェクトは、その語源も、もともとは南アフリカ共和国の人種差別・政情問題（ネルソン・マンデラ：南アフリカの反人種差別活動家で、のちに黒人初の南アフリカ共和国の大統領に就任：は実際は2013年12月に死去し国葬されたが、1980年代に悲劇的に獄中死したと記憶していた人が数多くいた）に端を発する話なので、そもそも大きな話になりやすいから、取り扱いも、UFO問題などと同等の慎重さを要すると言えるだろう。

日本最大の匿名掲示板である、5ちゃんねるのオカルト板を開くと、冒頭に「ここはオカルト版です。オカルトを学問的に追及したい人、娯楽として楽しむ人、それぞれが異なる立場で参加しています。互いを尊重し不快な思いをさせないよう心がけましょう。」などという注意書きがあるが、これこそ、マルクス主義の史的唯物論を起源とする、現代のオカルトの規律と統治の支配的なイデオロギーの象徴的な文言である。イデオロギーや思想ではなく、常識だ、と思っている人も少なくないイデオロギーである。私自身も、この意識に以前は当たり前のように毒されて支配されてしまっていた。

私自身、最初にマンデラエフェクト現象に気づいたときは、これはおそらく、精神医学的には、離人症という精神症状だと思うが、自分の意識があるのが怖い、自分の意識が続いていくのが怖いという状態になってしまい、72時間ぐらい一睡もできなくなり、胃の中のものを全て嘔吐して、何も食べられ

ず水しか飲めなくなり、階段を降りるだけで脚がプルプル震えるようになり、仮にも例えば、天皇家の皇太子とかがそういう精神状態になるならまだ分からなくもないが、公立小中学校卒で、実家は狭小で、歯列矯正していて：などと、直接手が届いて、目で見えて、耳で聞こえて、足で歩いて行けるような、イツツ・ア・スモールワールド的な、心地よいコージー (Cozy) な世界に意識を集中したりもした。

のちに、内観を重ねるうちに、なぜそんな意識になってしまったのかに気付いた。ナチュラルに、自分の中に、ファシズム的な意識があるためである。私は、本当にナチュラルに意識にファシズムがあつて、こういうことを不思議だなあと感じてしまふ時点で世渡りのセンスがなく、恥ずべきことなのだ。が、私は今まで、建設業の職人、消防設備士、警備員などの経験があるが、社会主義国や北朝鮮のようなファシズムの専制国家はどうだか知らないが、日本国の場合は、無数にパラレルワールドがバックアップ的に存在しているのかは分からないが、なり手がどこかから出てくるみたいな感じだから、人材が豊富で枯渇しないし、人材の質はけっこう低くないみたいな感じなのと、著者は、自分自身がそれらの仕事をやっているときは、他になれるものがなくて仕方なくやっているみたいな卑屈な意識で、周囲からもそう思われているのだろうと思っていいたら、意外とそんなことはない、という体験が結構ある。

これももし、北朝鮮のようなファシズムの専制国家だったら、あの仕事は他になれるものがなかった人が仕方なくやる仕事だみたいな意識が強くなるし、人材も不足するのだろうと思う。そういうことを当たり前だと思えない、ファシズム的な卑しい意識と根性が根強くあるから、だから当初は気持ち悪くなくなってしまったのだと考えられる。まあ著者は生まれも育ちも東京であるが、東京があまり好きではなく、あるいは必ずしも長いものに巻かれたがったり、学歴や偏差値至上主義でもないが：。

また、パラレルワールドの移動以外にも、神仏や未来人や死後の人などによる、時空間の情報浄化や再編成も考えられると思う。現在でも、パラレルワールドや、神仏・未来人等による過去改変などを否定する根拠となっているのは、史的唯物論というカール・マルクスが創始した史観（現代ではイデオロギーや思想ではなく常識だぐらいまで世の中を支配してしまっている史観）だが、私は右か左かで言ったらどちらかという右で、むしろ反共で、マルクス主義と対峙しなければならぬ立場なのに、当たり前のように史的唯物論のファシズム的な意識に毒されてしまっていて、こういった現象に気付いた当初、気持ち悪くなってしまったのである。誠に恥ずかしいことである。

話は少し脱線するが、日本は右傾化していきっており、ファシズム化していきっているという人もいるが、日本の左翼、日本の反戦は、インターネットが普及する前は、反戦を言いながら、反戦のくせに、いわば反戦ファシズムと化していたように思う。学校で日教組の平和教育とかで、被爆地に大量の折り鶴を送って、ごみ焼却炉で折り鶴を焼却して資源の無駄遣いなど、その象徴。こうした不思議体験が広く共有される場がインターネット上にあつたり、あるいは異世界転生モノの創作が流行ったりするよりも、以前の方がよほどファシズムだったように思う。そんなことをやっていたら、当然、反動も出てくる。今日本が右傾化しているように見えるとしたら、中国の脅威などもあるが、反動も大きいと思う。

著者の大伯父さん（祖母の兄であり、ひとり親家庭で育った父親の後見人であり、著者は養子にされそうになったこともあり、著者にとつては祖父の代わりみたいな人）は、東大卒で、横浜市の水道局長や磯子区の区長もつとめ、第99代日本国首相の菅義偉さんの政界キャリアスタート時に何か関わりがあつた恩人みたいな人で、晩年まで意見交換などする中で、国から叙勲もされている人で、英語も堪能

で後期高齢者になっても元気に海外に行っていたような人だが、世代的に間違いなく戦争経験者で、空襲なども間違いなく経験しているが、昔の話で小耳に挟んだことがあるのは、戦争の話は一切聞いたことがなく、横浜市街が舞台の日本最大の喧嘩（おそらく鶴見騒擾事件だと思う）があったのが恥ずかしいみたいな話をしていたのを又聞きで聞いた。

警備会社で会った、とある元逮捕特錬員で剣道6段のお爺ちゃんは、成田闘争警備にも、大喪の礼（たいそうのれい）の警備にも、オウム真理教のサティアン強制捜査にも参加したが、戦闘とかの話ではなく、日常であったほっこりするような話を話したがるみたいな感じだった。ファシズムにうんざりしている本物ほど、武勇伝をあまり語りたがらず、あるいは大きな話にはあまり触れたがらず、ちょっとぼかしたり小さくして、反ファシズム的になる傾向があると思う。

だが、著者は基本的に反戦で、ファシズム否定、ファシズム嫌いだ、必ずしも、ファシズムが全て悪いことというわけではない。その警備会社で会った警視庁OBのお爺ちゃん（当然、防犯カメラとかがない時代から警察にいた）に、私の母親は1960年生まれで、80年代の横浜をリアルに知っているけれど、いまだに、あるところにはあるみたいな感じで、いちいち報道されない、表沙汰にならない物騒なことがたくさんあるみたいなき意識があるんですよ、今そんなことがあったら全部報道されるじゃないですかと言ったら、猛烈に反発されて、私が折れて、まあ警視庁は昔からずっとちゃんとやってたかもしれないですけど、神奈川県警とかは警察の機能がパンクしちゃってたみたいですよというふうに少し折れたが、それでもなお、反発された。これは素敵なファシズム、いいファシズムだと思う。私も、そんなにファシズム意識が強いなら、警察官採用試験を受けて警察官になったらいいのかもしれない

い。税関とか麻薬取締局とか警察とか海保とかの大麻や違法薬物の取り締まりとか、性犯罪や殺人事件の捜査とかは、「あるところにはある」感では困る。北朝鮮による拉致や工作船も、「あるところにはある」感や「たまたま」感では困る。1件たりとも見逃してはならないし、取り締まりはファシズムでいいし、むしろファシズム的であるべきだと思う。国税局も同様である。

話を戻すが、問題は、なぜこういった記憶が、ほとんどの人は記憶が上書きされてしまうか忘却してしまうのに対して、自分を含めた一部の人の場合は、改変前の記憶が残りやすいのかという部分である。実は、インターネットには既に、こうした世界の変化を捉え、改変前の記憶を共有する人たちのコミュニティがあるのだが（本書が初見の方はマンデラエフェクト、あるいはマンデラ効果、で調べてください）、そこで言われている説としては、遠い先祖が神様や宇宙人と結婚したりしていて神様の遺伝子が入っているんじゃないかという説とか（例えばキリストや天皇が遠い先祖にいたりとか、物部氏の末裔であるとか）、家系に重い貧困や病気があって壮絶な差別を受けた被差別の人や、修験道などを修行した僧侶や神官などがいたり、あるいは先祖に家系に臨死体験した人がいて、その霊験がいまだに遺伝してる説とか、むしろ逆に、先祖に家系に輪廻転生から外れた外道の人がいる説など、諸説がある。

この問題について考察していくうちに1点辿り着いた懸念がある。著者は、繰り返すが、両親が幸福の科学という新興宗教の熱心な信者で、今は忠誠心や信仰心や活動実態はまったくくない幽霊2世会員だし、今は実家から離れて一人暮らしなのでそういう世間話が入ってくることも全くないのだが、実家に住んでいた頃は、すごく背負っている貧・病・争・災の厄の重い人の話とか、いろんなびっくり人間みたいな話、この世の不思議みたいな話をよく聞かされたのだが（新興宗教2世会員あるあるだと思う）。

例えば、「エホバの証人」の2世会員とかもいろんな世間話を聞かされて育つのだろうと思う）、例えば、ある会員さんに、自殺の現場に遭遇しすぎて、首吊り自殺、飛び降り自殺、踏み切り自殺、飛び込み自殺、人身事故を、ぜんぶコンプリートで目撃したことがある会員さんがいるとかいう話を聞いたことがあるが、私は恵まれたことに、守り神が強い体質で、一度たりともそういう現場に遭遇したことがなく、学生時代はなぜか自殺件数が統計上はワースト1位になっている中央線の西八王子駅にも私用で通っていたが、1度たりとも自殺の現場に遭遇したことがないし、あるいは、警備員の仕事でも、シフトで入ると、やたらと発報を引き当てるとかバイスタンダーになったりするみたいなのもいるらしいのだが私はそういうのも全然ないし（医療従事者でもシフトで入るとやたら急患やご臨終を引き当ててみたいなのもいるらしい）、あるいは他方、女性の方などで、学生時代に毎日のように痴漢の被害に遭っていたなどというにわかには信じ難い証言がたまに出てくることがあったり、あるいは女子高生の何パーセントが売春しているみたいなのデータが出てくることがあったりするが、でも、私の観測している現実では絶対にあり得ない話で、だが嘘を言っているようには見えない場合もあって、

しかし、この世界のマクロなスケールの社会的な現実とは、当然、バラバラではなく、ある程度、厳密に運行されなければならないわけで、こういうのを理論物理学の世界でなんというのか、私は物理学は高校中退レベルだから何か間違っているかもしれないが、**事象の地平面？** あるいは**事象の地平線？**

(シユバルツシルト面、あるいはEvent Horizon)が必要になってくるわけで、おそらく、警備会社、警察、消防、自衛隊、医療機関、教育機関、国税局、マスコミ、などがそれに該当するのだろうと考えられる。あるいは、2019年から始まり数年間世界的に流行した新型コロナウイルス感染症の時に思ったが、火葬場と葬儀場もそうかもしれない。

そういう機関からも弾かれるほど、極端で異様な記憶などがある人は、俗に、統合失調症などとされる、あるいは、統合失調症とされて苦しんでいる方々の中には、事象の地平面で、地獄のような異次元世界との境界領域で、結界のお役目を果たされている方などもいるのかもしれないとも考えられる。だから私は、誰のどんな話でも、話だけは聞くようにしているし、同様の観点・発想から、週刊誌社にも警察にも、誰のどんな話でも、話だけは聞くというマニユアルや部署が実はあるらしい。アメリカのCIA（中央情報局：国家戦略的な対外情報機関）にもそういった窓口が存在し、いずれも、ほとんど9割9部は妄想や与太話であるから、職員からは苦痛な業務とされて敬遠されているようである。

著者は、警察官の採用試験を受験したこともあり、今でもちよつと、自衛隊の情報部員や特殊部隊員にも憧れているのだが、私は、トラブルキャンセル体質、幸運体質なので、もしかすると自衛隊の情報部や特殊部隊に入ったら、有事キャンセル体質ということで役に立てるかもしれないが、情報部員や特殊部隊を目指すなら、幸運すぎて全部回避してしまうというのでは仕事にならないだろうし、警察官を目指すのなら、むしろ厄介ごとやトラブルを引き当てて遭遇しまくる体質でなければならないのだろうか？などと考えたりする。警備員のときも本当に有事の際にも備えて、自作の、救護用品一式を詰めたファーストエイドキットを持ち歩いたりもしていた。（誰でも半日で取れる）上級救命講習も行った。

そのようなマインドがあるため、現在でも、マンデラエフェクト関連の匿名掲示板等に常駐し続けているが、そのことに多大なリスクがあることも懸念しており承知している。人間の持つファシズムな意識とコージーな意識の、対立、葛藤、中和を扱った作品（映画やアニメなど数多ある。ラノベ・アニメ作品なら鴨志田一先生の青春ブタ野郎シリーズなどが人気である）は多数あるので、そうした作品から

栄養を得ることも怠らないようにしている。そのためか、日常生活において特段の支障は今現在、生じていない。今は、ある種の悟りを開いたのかもしれないが、コーギーな意識とファシズムな意識が併存している。シンクロニシティ現象も日常茶飯事だが特段の支障はない。

ほかに、こんなようなことが日々多数あるのだが、例えばYouTubeの動画などが、以前見たときは、微妙に掛け合いのニュアンスなどが変化しているなどといったことがある。臨死体験者の人の報告で、「過去戻し」というものがあり、死後に生前の徳に応じて過去を改変できるという報告があるのだが、そうだとすると、それをしょっちゅう観測できる自分は何なのか？と思うことがある。まさか、自分が地球人類の時間進行の最先端だとは思わないが、下級の神様や神官レベルの権限というか、何かがあるのは間違いないと思う。だが、おそらく死後の人などだと思うが、自分よりも上位の権限の神様や存在もいることを実感により確信している。著者は、両親は横浜出身で、関西などにルーツがある人などはいないのだが、日常生活でも仕事でも、やたらとADHD的な無意識の衝動による発言などが「フリ」とか「オチ」とかが効いているような感じがあるのと、だがたまに先回りされることもよくある。なので、自分が地球人類の時間進行の最先端ではないことは確かである。また、それによって、自分が輪廻転生から外れた外道ではないことも分かるので、とても安心する。もしも地球人類の時間進行の最先端の者がどこかにいるとしたら、考えられるのは、ジーザスオプナザレ（イエス・キリスト）のY染色体が同一の直系子孫などで、米国の情報機関や軍と連携して、異なる時間進行を試みる敵国やテロ組織などと戦っている可能性が考えられると思う。私は、穏やかに生きたいので、そんな権限がなくて本来によかったと思う。『とある魔術の禁書目録』というラノベ作品は、旧約と新約で世界が変わったという作品だが、作者は確実に何か分かっていて書いている。

だが著者も、説明が困難な、長くて複雑で、目覚めた後も記憶に残る夢なども色々見ている。仏教にはおそらく阿頼耶識（あらいしき）につながる恐ろしい夢を何度か見ている。しかし、それがどうしてもイヤだから夢を見たくないとか、そういったことはないし、その日の翌朝ぐらいまではちよつと影響が出るが、長期間にわたって影響が残り続けるようなこともなく、特段の支障は現在生じていない。

怖い夢ばかりではない。昔、著者は、イスラムなんてろくなもんじゃないと思っていて、匿名掲示板に、イスラムをけちよんけちよんに批判する書き込みをしたことがある。そうしたら、その日の夜に、夢の中に、女の人とか女神さまが出てきて「本当のイスラムはそんなものじゃない」などと言われ、そのあと、旧日本海軍の五省訓みたいな、失敗しない生き方、後悔しない生き方、みたいな情報がぶわーっと大量に、洪水のように頭の中を駆け巡って流れ去って行って、少しでも記憶に留めておきたかったが、目覚めてから、読後感以外はすべて忘れてしまった、ということがあってから、イスラムには一目置いているのだが、イスラム教なのに女神様という時点でもう、この世界のイスラムとは全然別物である。また、非常に人間くさいメッセージだか御神託だかを頂戴したことも多々ある。

まえがき執筆 令和7（2025）年10月05日

□ 序章 マンデラエフェクトではないが、今までに謎だと思ったこの世界のマトリックスの謎

○ 老人ホームの入所者の入所経緯と入所維持と死亡に至るまでの経緯が謎。

○ 株式非公開の会社の株価も上がることがある。

○ 消費税を廃止できない謎。

○ トリガー条項凍結とガソリン価格と東日本大震災復興財源の謎。

○ 日本国政府の財政規律にまつわる都市伝説。うっかりでも政府の財政が黒字になり、赤字国債が返済されると、それをメディアが報じてから数日から数ヶ月以内に、必ず株価などが値崩れを起こして経済破綻する謎の現象がある。1929年の世界恐慌、1987年のブラックマンデー、1991年の日本のバブル景気崩壊、1997年のアジア通貨危機、そして2008年のリーマン・ショック。どれも起こる直前は空前の好景気で、国には自然増収した税金が舞い込んできていた。

○ 電力自由化後の新電力の料金の仕組み。

○ 通貨の大暴落の原理。

○ 動物の遺体でジビエを作るときは血抜きが必要なのだが、人間の場合（解剖実習、バラバラ殺人等）、血の扱いが謎。

○ 妊婦さんの身体や出産の不思議。

○ 合気道の開祖の植芝盛平翁の技や、不世出の達人の塩田剛三先生の技や伝説。

○ 高所から飛び降りた際や、武道や武術の稽古で投げられた際、受け身を取るとダメージを回避できる。死体と同じようにぶん投げたら（そもそも重たくてふにゃふにゃで投げられない）、直ちに損傷が入っていくと考えられる。

- 術中死（失血死を除く）や癌による死亡、心不全による死亡。
- 開胸手術（とりわけ乳児）の謎。
- ベジタリアンの人が栄養失調で餓死するなどといったことはあり得ない。
- 満員電車では集団感染しない等々、新型コロナウイルス感染症のいくつかの謎と不思議。
- 飢餓・飢饉の発生。社会主義国の計画経済。
- アポロ計画やマンハッタン計画。
- 集団食中毒や火災の拡大。（行くときは行くみたいなき感じ）
- 戦場における**跳弾の原理**。ヘルメットを貫通した弾が、額や後頭部に沿ってぐるっと滑って回って反対側（直進方向）から出るということがあったり、跳弾はクレーターみたいなくぼみみたいな場所に当たって跳ね返ると180度ぐるっと回転して自分に跳ね返ってくる場合があるという。
- 大気中の酸素や窒素が比重で上下に分離しない。（引用）
- トイレの大便等を下水管（ほぼ真下）に落とすだけで数十リットル必要なのに、下水処理場までどうやって大便等が辿り着いているのか？とんでもない激流が必要なはず。（引用）
- ハイインリッヒの法則や、割れ窓理論や、インシデントや事件・事故は続くことがあるなど。
- スポーツなど競技の世界の「**競技レベルの向上**」という現象。
- 人が住まなくなった家は急速に朽ちる。
- 神社の鳥居が傾いたり倒れたりしない。
- 日本の被差別部落（同和）の問題やユダヤ人のゲッター差別問題。
- 不思議だけれどたまに起きる戦争。
- 極左暴力集団はトイレや食事はどうしているのか。

○ 治安の悪い地域のコンビニや精神科のクリニックのトイレはよく詰まるのだが、誰がいつどうやって詰まらせているのか不明。

○ 都会などの治安の悪い地域の、奇怪なミミズ文字のスプレীর落書きやステッカーによる汚損。

○ 大麻や違法薬物は、どこでどうやって買ったら買えるのか。

○ アメリカのホームレスが薬物中毒者などという話をよく聞くが、ホームレスで仕事がなく収入がないのに、どこでどうやって違法薬物を購入しているのか謎。路上のゾンビさんと呼ばれる方たちは、寝床や食事や排泄などもどうしているのか謎。

○ アメリカの超肥満者の謎。アメリカで、一人で就労や経済活動も食糧調達も排泄もできない独居の超肥満者の孤独死遺体が発見された。肥満で動けないので、皮膚がソファーと圧着だか癒着しており、ソファーのケツの位置がくり抜かれており、その下にバケツが置かれて排泄物を処理していたという真偽不明の情報がある。アメリカでは、たまに、どうやってどのようにしてそこまで太って、どのようにして生活しているのか等がまったく不明な超肥満者が出る。著者自身も、精神的な問題で短期間で急速にやや太ったことがあるが（今は徐々に痩せていっている）、変化量（時間的変化や量的変化）や生活規則等、まったく捕捉できなかった。体調によって2日3日が1週間のようになったり、数ヶ月間が1週間のようになったりする。あのとき、どうしていたんだろうというのが若干謎。若干、異世界にいたものと思われる。ハゲや糖尿病や貧困や統合失調症なども、なる人はなるし、ならない人はならないし、原理を全然説明できない。患者さんの個人の時空運行が変調していて、やや異なる世界に属している人がなるものと考えられる。患者さんの個人の時空は、悪魔的存在によって、ダークな低級な並行現実

実に侵食されている可能性が考えられる。凶悪犯罪者も然り。

○ 恐竜は、現在の世界線では、重力に耐えられず、自重で潰れてしまう。首だけで10メートル以上のブラキオサウルスのような巨大な恐竜が、自重に耐えられるはずがないし、頸動脈の圧力などを考えれば、循環器系が頭部に血液を送れないし、呼吸器系も効率よく酸素を取り込めない。(水中または湿地で部分的に浮力に頼っていた説や、骨構造や内臓器官が極めて特殊で、鳥類のように軽量化されていた説もあるが) 恐竜が存在していた世界線では重力が小さかったのだが(物理学者のポール・ディラック: Paul Dirac: が1937年に「大数仮説 (Large Number Hypothesis)」の中で提唱した「可変重力定数仮説 (Variable Gravitational Constant Hypothesis)」によれば、中生代は地球の重力は現代の約半分から三分の一程度だった)、地球の重力が違うということは、一般相対性理論により、地球の大きさも、時間の流れる速さなどもすべて違う、それは異なる時空ということだから、それは、直線的な過去ではなく、別の世界線(異世界)ということになる。

それを、なぜかどういふわけか、地面を掘っていくと、過去の地層という措定的な直線的な過去に規律(擬律)されたところから恐竜の骨(という表現。実際には何なのか分からない)が出てくるということとか、あるいは放射性炭素年代測定法とかで、直線的な過去に無理やり規律(擬律)して、措定的に、何億年前のことである、とか言ってるだけに過ぎない。(極論を言うならば。)

○ 現在の冬の京都や東北は底冷えするが、平安時代〜江戸時代の電気が通る前の時代の家屋は暖炉があっても凍死するほどの寒さになるはずである。しかし、暖炉も他の暖房設備も発見されないし記録もない。しかし日本には間違いなく冬という季節は昔からあり、神社の伝承や美術品などさまざまな形で記録が残っている。また、フランス革命前のフランスはし尿をどう処理していたのが謎とされる。

まえがき・・・P1～P14

序章・・・P15～P18

第1章 マンデラエフェクト（マンデラ効果）とは何か・・・P20～P23

第2章 主なマンデラエフェクト・・・P24～P222

第3章 象徴学的なマンデラエフェクト・・・P223～P240

第4章 テンソルを利用したマンデラエフェクトの数理モデル・・・P241～P257

第5章 未来人やタイムトラベル技術の展望と考察・・・P258～P268

第6章 著者の個人的な心霊体験的なマンデラエフェクト・・・P269～P304

第7章 著者の個人的な心霊体験的なマンデラエフェクト2 母親からの毒親霊障虚偽記憶・・・P305～P319

第8章 並行世界（パラレルワールド）に・・・P320～P369

あとがき・・・P370～P384

第1章 マンデラエフェクトとは何か

巷にマンデラ効果（マンデラエフェクト）といわれる摩訶不思議な現象がある。現実とは異なる記憶を、たんなる誤認識とはいい難いほど具体的かつ詳細な内容で記憶していたことを不特定多数が共有することを一般的にいう。

あるいは、その時点で一人だけしか主張していない場合であっても、具体的かつ詳細で、虚偽を騙る動機も見られない場合には、顕著な事実性の心証と信憑性から、マンデラエフェクトとして扱われ、検討・追究の対象となることが多い。一般的な説としては、神仏など高次元的存在による時空間の再編成による世界改編、あるいは超最先端の科学技術や未来人による未来技術による世界改編を、リーディングシユタイナー能力者（後述）たちが、改編前、あるいは消去される前の記憶を保持していると考えられることが多い。

そもそも量子モナド理論（注釈1）に代表される理論のように、現実とは、無限大あるいは多数の時間軸が、統合されて成り立っているという観点から、宇宙レベルから地球上の国際紛争レベル、あるいは個人の利益追求レベルまでのさまざまな動機で、政治的闘争や国家間紛争にかかる歴史的事実や個人の些末な話までについて、エイリアン、未来人、神仏などといった異次元存在が、書き換え合戦を行っているのだと言われることもある。この我々の現実世界が、上位次元人によって管理・統制されるマトリックス世界であることの証左として、オカルトを研究する人や、マンデラエフェクトを実際に経験したことにより不可思議な現象を信じざるを得なくなった人々から、注目され、支持される概念である。

当初の言葉の語源は、南アフリカ共和国の政治・人種問題にかかって発生した大規模なマンデラエフェクトである。そのためか、インターネット上では、マンデラエフェクトは、ファシズム的な意識の人達から、非難と侮辱の槍玉にされがちで、コージーな意識とファシズムな意識の対立という、オカルトの世界の普遍的な紛争の中にあっても、もっとも激しく困難な言論空間が生じている。

あるいは、例えばTwitter（現X）のミリタリー（軍事）クラスタの人たちの中などでは、マンデラエフェクトという言葉や概念も知らないし、むしろオカルト全般に対して侮辱的なネガティブイメージを抱いているが、昔見たあれが、いつどこでどうやって見たのか、何で読んだのか不明、見当たらないなどと言っている人がよくいたりもして、他にも様々な分野で、通念的・横断的にこうしたことがあり、オカルト全般に対する侮辱的なネガティブイメージのために、情報の集約と統合が困難になっている。

私は、マンデラエフェクトの体験者であるから、体験者としての視点を持ち、さらに、生まれ育った家庭環境のために、自分自身の内部にも、ファシズムな意識とコージーな意識が併存しており、日々葛藤していることから、マンデラエフェクトの複眼的な総合分析と探究ができる人材である。また、生まれ育った家庭環境などの関係から、ミリタリー・防衛などについても詳しい。よって、ここに、マンデラエフェクトの総合的な探求を記述した本を執筆し、日本国民、および日本語話者の外国人のマンデラエフェクトのインターネット・言論空間に貢献しようと思いいったのである。

（注釈1）：「量子モノド理論」は、私たちが観測する心の働きが宇宙の根源を創り出し、その宇宙が心の世界の中で展開されていると考える理論。意識や脳を量子的な視点から理解しようとする「量子脳理論」の一種。

○私のマンデラエフェクト（マンデラ効果）との出会い

2017年頃からだろうか。正確な時代認識は難しいものの、インターネットのオカルト史学者（というものが仮に存在すると仮定して）による編纂（へんさん）が待たれ、あるいは期待されるころであるが、誰でもアマチュア小説家デビューできる私小説投稿サイトで、異世界転生モノの作品がジャンルとして確立され、ある種のブームとなり、あるいは、オカルトの世界では、異世界に一時的に滞在した体験などが流行るようになり、また、大昔からファンタジーやSFの題材として、時間逆行や未来移動による時空間異動および現実改編というジャンルがあるが、そういったものが、より我々一般人にとって、身近となって親しまれるようになり始めたのである。

マンデラエフェクトの世界の嚆矢（こうし）となった作品は、シュタインズゲート（STEINS;GATE）である。2011年4月から9月までテレビアニメが放送され、2013年4月20日に劇場版が公開され、2018年4月から9月まで続編『シュタインズ・ゲートゼロ』が放送された。当作品は、マンデラエフェクト考察時の基本的な用語である、『**世界線**』や『**リーディング・シュタイナー**』という言葉の起源と言われる。こうしたことから、マンデラエフェクトについて敵対的な言論世界では、こうしたアニメや私作小説などから発生したミームに過ぎず、あるいは妄想、などと批判されることもある。

著者は、当初は異世界体験談について調べていて、そのうちに、自分にも不思議な記憶がいくつかあることに気づいて、次第にマンデラエフェクトの存在を確信し、のめり込んでいったように思う。



(C) 2011 5pb./Nitroplus 未来ガジェット研究所

○マンデラエフェクトの起源

シュタインズゲート、通称シュタゲ (STEINS;GATE) は、日本でのマンデラエフェクト考察の際の基本的な用語である、「世界線」や「リーディング・シュタイナー」という言葉の起源となった作品である。また、2015年頃から、異世界転生モノの作品や、異世界に短時間滞在したが帰って来られたというような話が流行した時期があったようである。だが「マンデラエフェクト」の起源はアメリカであり、2010

年頃から英語圏のインターネットに出現した。日本では「宮尾すすむがもっと前に亡くなっていた記憶」というスレが同時期に匿名掲示板で連続と続いており、アメリカ由来の「マンデラエフェクト」の概念と合流した。マンデラエフェクトの用語と概念は、アメリカの超常現象作家フィオナ・ブルームが提唱したもので、ブルームが2009年にサブカルチャーイベントに講演者として参加した際にイベントスタッフから聞いた、ネルソン・マンデラ氏の獄中死の記憶を持つ人々の体験談に端を発するとしている。それらの記憶は全て事実と矛盾するものであったが、追悼式の様子や夫人の演説、その後の南アフリカ各地で起こった暴動など具体的な内容を含むもので、ブルーム自身もかつて単なる勘違いだと思っていた記憶と細部に至るまで一致するものであった。それゆえブルームはこの現象を、現在の普及科学では説明し得ない一種の超常現象と解釈した。ブルームは2010年に「The Mandela Effect」サイトを開設し、マンデラ獄中死以外にも同様の現象が起こり得る可能性、ならびにそれらの記憶が並行世界の代替現実 (Alternative Reality) によるものであるという仮説を示した。

(1) JFK暗殺(ザプルーダーフィルム)の変化、その他さまざまな歴史的映像の変化

私がマンデラエフェクトの実在を確信したのは、アメリカ合衆国第35代大統領のジョン・F・ケネディの暗殺状況を取り巻くマンデラエフェクトが最初であった。

まず第1に、私は平成10(1998)年生まれの27歳(本書初版発刊の2025年時点)であり、1963年の古い出来事であるJFK暗殺について、関心があつて、取り憑いたように読み物を読んだりして調べていたというのも既におかしいのだが、それに加えて、以下のようなマンデラエフェクトが確認された。



現在のザプルーダー・フィルム

私の記憶では、JFKが狙撃された際、これを撮影していたザプルーダーフィルムでは、ケネディの脳漿や頭蓋骨の破片が1〜2個飛び散り、同乗していたジャクリン夫人がすかさず振り返って、犬が土を掘ったり水をかいたりするような動きで、すかさず、ぱぱぱっとかき集めてどこかへやっつてしまい、また正面に向き直って座り直していたはずなのである。後方からすかさず夫人に駆け寄って、手を差し伸ばした、クリントン・ヒルというシークレットサービスもいなかった。また、映像は、もっと見下ろすような俯角があり、おそらく車の進行方向も左右逆であった。そもそも、もっと不鮮明な白黒の映像であった。

単純に、グロかったからトラウマになったというのものもあるが、世間の風潮として、そのジャクリン夫人の行動（脳漿や頭蓋骨の破片を拾い集める）について、教科書の記述のように、ベタベタした説明をつけようとするような風潮があり、人間、緊張マックスになってしまつと、自分でも、なぜそんな動きをしてしまったのか分からないような動きをしてしまうこともあるだろう、その瞬間を激写されて全世界に晒されたジャクリン夫人が可哀想などと思つたり、あるいは世間のその風潮にコンプレックスを抱いていて、自分も勉強して大人になって、裁判官や検察官などのように、動機や行為をガチガチに記述的に説明できるようにならなければならない、と思つていた記憶もある。

また、都市伝説百選のような安いペーパーバックで読んだ話として、車は大統領就任式典時のように低速で徐行していて、周囲を4〜6名のシークレットサービスが徒歩で随行していて、大統領が狙撃された際に全員が棒立ちで無反応だったことから、シークレットサービス買収説や脅迫説などがあり、さらに陰謀論に拍車をかけていたりとか、狙撃は最初の1発、初弾で命中させたので奇跡の1発などと呼ばれていたとか、不鮮明映像下では、夫人が犯人に見えるだとか、運転手の禿頭の頭のテカリがどうのこうののだとか、いろんな話があったはずなのである。しかし、今の鮮明な映像ではそのような話が出てきようがないし、現在の世界線では、これらのことはすべて、無かつたことになってしまったのである。また、マンデラエフェクトの世界で主たるマンデラエフェクトとして挙げられるもののひとつに、ザプルーダーフィルムでJFKが乗っていた車（リンカーン・コンチネンタル）は4人乗りだったはずなのに、6人乗りに変化しているというものもある。また、私は映像の細かい部分を記憶するのがあまり得意ではないから追えていないが、ザプルーダーフィルムは、その後も3、4回、細かいところが変化しているという指摘がある。

元警察官僚で、縦社会を横に歩いた男などと呼ばれ、『危機管理』という言葉を生み出した故・佐々淳行（さっさ・あつゆき）氏は、何かを知っていて隠しているのかもしれないという疑いがある。また、そもそもJFKは1980年代（1984年または1989年）のアメリカ合衆国の大統領だったはずである。何らかの遠大な事情により、人類の歴史が大幅に再編成されている可能性がある。

日月神示（神典研究家で画家でもあった岡本天明が『国常立尊』という高級神霊からの神示を自動書記によって記述したとされる書物。昭和19年から27年に一連の神示が降り、6年後の昭和33、34年に補巻とする1巻、さらに2年後に8巻の神示が降りたとされる）によれば、その神示を降ろした神から見て特に重大だった5回だが、過去に5度の岩戸閉めと岩戸開き（神仏による人類史の時空間の再編成、人類のやり直し再出発）があったとされる。また、物理学者の計算によれば、この宇宙は、やり直し再出発10回目、11個目の宇宙であるという計算結果もある。直近では、1969年、1984年、1989～1990年、2001年、2005年などに、神仏による大規模な時空間再編成、人類史の再編成があり、何らかの時間を超えた戦争が遂行されているのだという主張あるいは情報もある。

同様に、1994年のエールフランス8969便ハイジャック事件で、ハイジャック機に梯子車でアプローチするフランス国家憲兵隊の特殊部隊の先頭1番員が、テロリスト側からの先制反撃で撃たれ、持っていた銃器に被弾して、ものすごい火花がパーンと散って、衝撃で転げ落ちたというシーンも消えていたり、あるいは、ジョージ・H・Wブッシュ（パパブッシュ）大統領が訪日時に、立ちくらみながら嘔吐して、我が国首相（たぶん宮澤喜一首相）のスーツに吐瀉物を引っ掛けてしまったシーンも消滅して、無かったことになっている。